

予算の使い残り  
24億7千万円

# 市民福祉は 拡充できる



いぬい紳一郎 小田桐たかし 植田和子 高橋あきら

収入全体 (598億円) は過去最高、市税の増加率も東葛1位となったH30年度の流山市。  
人口が増えて税収が増えたのに、何が変わったの? いったい誰のため、何を優先して市政が運営されているのでしょうか…。

高齢者1人当たりの福祉費は、10年間で3割以上も削減しています。また、子ども達への学習・生活支援では県下で最も少ない対象者に絞り込み、児童虐待やいじめ等の専属職員は大幅に不足。夜間小児救急では継続が危ぶまれています。

一方で、過度な緊縮財政の結果、予算の使い残しが24億7千万円にも膨張。日本共産党は政策の大幅見直しを提起し、市民福祉の拡充を求めています。

## 地域経済の活性化も提案

民間住宅に対する太陽光発電などの設置補助制度 (年間950万円) における経済効果は22.7倍 (約2億1千万円) にも。住宅や店舗のリフォーム、家具の転倒防止、危険なブロック塀の改修などにも補助を広げれば、市民の安心が広がり、事業者にも仕事が生まれ、経済効果を地域で実感できるようになります。

## 「使い残り」の5%でできる!!

- 国民健康保険加入世帯で3人以上子どもがいる多子世帯の負担軽減 500万円
- 民間バスにおける高齢者割引の導入 3000万円
- 敬老バスの制度拡充 2000万円
- 在宅介護におけるオムツ代補助の充実 300万円
- 重度障がい者の在宅入浴は週1回を保障 400万円
- 子どもの学習・生活支援の対象拡大 3000万円
- 自主防災組織への支援拡充 700万円

## 市議会

# ねほり・はほり

### ● 「新設校」表明も…課題山積み

9月議会の特徴の一つが、2校の新設小学校の検討表明でした。しかも、南流山地区では調整池にフタをし、建設する計画。この大元には、低層戸建て中心から高層マンションも建設できる街づくりへ変貌させた (2008年) と同時に、学校など受け皿なしに、無秩序な人口誘



学校建設が予定された木地区の調整池

致を進めた市長の政治姿勢があります。

日本共産党は、今年4月の市議会議員選挙で新設校の設置を求めた唯一の政党です。不動産売買を優先した街づくりや、学校環境を後退させる市長に対決し、南流山地区での学校新設の必要性を提起してきました。

台風19号の際には、調整池の5割弱まで水位が高まり、浸水も想定された地域です。学区編成や地域コミュニティの形成拠点、将来的な活用方法など課題は山積みです。学校環境も街づくりもより良いものへ…一緒に力をあわせましょう。

### ● 画期的! 「選択制夫婦別姓」意見書を可決

男女平等のレベルを示す「ジェンダーギャップ指数」で日本は149カ国中110位、日本にはまだまだ根深い女性差別があります。

9月議会では日本共産党は、夫婦同姓を義務付けているのは日本だけと「選択制夫婦別姓の法制化を求める」意見書を提案。賛成多数で可決され、流山市議会の良識が示されました。



園児の安全へ 巻き看板設置 (名都借) 高橋あきら



美原1号公園に念願のトイレ設置 植田和子



右折信号を設置 (東初石3丁目) 小田桐たかし



傷んだ道路を再舗装 (流山9丁目) いぬい紳一郎

身近な要求実現